第２回福島県水道ビジョン検討会　議事録

日時：令和２年１月３１日（金）１４：００～１６：００
場所：自治会館１０１会議室

【出席者】
（検討委員）

氏　名	所　属　名　等	出　欠
今泉　　繁	福島地方水道用水供給企業団　事務局長	出
岡部　光徳	古殿町長（福島県水道協会長）	出
佐藤　英司	福島大学経済経営学類　准教授	出
高橋　智之	会津若松市　水道事業管理者	出
田崎　由子	福島県消費者団体連絡協議会　事務局長	出
長岡　　裕	東京都市大学工学部　教授	出

（事務局）
福島県保健福祉部健康衛生総室
　次長　　高野　武彦
保健福祉部食品生活衛生課
　課長　　渡部　誠二
　主幹兼副課長　宍戸　正
　主任主査　　金成　徹
　副主査　　藤野　訓之
　副主査　　鈴木　貴士

【次第】
１　開会
２　あいさつ
３　議題･･･（１）～（３）
４　閉会

【発言録】
○「１　開会」および「２　あいさつ」までは省略。
○「３　議題」より
（１）福島県水道ビジョンにおける現状分析と課題の抽出について
　ア　現状分析と課題の抽出について
（佐藤）：現状分析で出てきた数値をどのように解釈するのか。
（事務）：厚労省で定めている数値があればそれと比較し、そういったものがないものは全国平均等と比較することを考えている。
（長岡）：数値の解釈を議論できるものがあればそれを基に議論を進めることもある。気候変動による水源水量減少等のリスクについても頭に入れて課題抽出作業を行うべき。
（今泉、長岡）：資料１－２の「水源の保全」は、持続より安全に分類するのが適切では。

　イ　事業体アンケート結果について
（高橋）：技術の承継に関して、自治体の長である岡部委員に技術職の職員養成についての意見をお聞きしたい。
（岡部）：職員削減の流れの中にあっても、若い職員に資格取得を促しているため、役場内で有資格者の確保は行えている。しかし、専門的な技術の習得は、有資格者の確保とは別の視点で取り組む必要があると考えている。職員が業者に教えてもらうなどの姿勢も必要ではないか。
（高橋）：土木技術者の採用が困難な状況にある。民間でも技術者が少なくなり、委託に頼れば良いと言うことではないと思っている。
（岡部）：上水道や簡易水道、その他林業給水施設等、規模によって必要な技術も異なる。小さな事業体では、そうした状況でも、技術者ではなく一般の担当職員が対応するしかない。
（今泉）：公共事業の削減に伴い官民共に人数も技術者も減少した。学生も減って民間との間で技術者の取り合いになっている感触。
（長岡）：学生の感覚が変わってきて、土木希望者が減っているわけではないと感じている。
（岡部）：事業体は災害時でも飲料水を速やかに確保することが必要だが、町村レベルでは人員の確保は難しい。
（田崎）：消費者にとっては料金の問題と安全、おいしい水の供給が一番の関心事。持続的な水道のために、すぐに料金の改定はできなくても、理解を得るための行動をとるべき段階だと思う。現状だけでなく将来のシミュレーションを示し、課題解決方法とそこにかかる費用についても示さないと、住民理解は得られない。また、十分な人材が必要な部分に充てられないと安全面に不安が出てくる。基礎データがないとはどういうことか？
（長岡）：水道利用者の理解を得るための取り組みは大事で、正直に経営・老朽化状況等を住民に開示することで理解を得ることができるのではないか。基礎データがないことに関しては、管路がどこに埋まっているか解らないところも多いのが現実。上水道でも比較的規

模の小さい事業体ではそのようなこともあるようだ。
（高橋）：事例として小規模事業体などでは、技術者一人しかいない場合や長く携わっている場合には、情報が技術者の頭の中だけにあり、その後、管路網などが分からなくなってしまうということが起きているようだ。
（今泉）：管路整備が優先で、更新の事が頭になかった事業体もあるようだ。
（長岡）：アンケート結果は、規模毎に分けて分析すると小規模事業体が抱える課題がより見えてくると思う。
（事務）：検討する。
（佐藤）：広域連携に取り組んでいない事業体については、意欲はあるが理由があって取り組めなかったのか、取り組まなくて良いと判断しているのかで温度差が生じてしまう。
（事務）：取り組み可能だと考えている方策を回答している部分もあるので、取り組む意思はあるが、実現に向けての課題があるため取り組めていないのだと思う。
（長岡）：ヒアリングすると実態が見えて来るのかもしれない。規模の小さい事業体では手が回らないのかもしれない。これまで見聞きした中では、本格的な広域連携はトップダウンであると進みやすいようだ。
（岡部）：広域連携については、統合までしなくても連携・連絡調整レベルでもできるものもあるので、そういった取り組みはゼロではないと思う。しかし、温度差がある。
（事務）：おっしゃるとおりで、統合だけでなくソフト面での連携も広域連携なので、取り組みやすいものから取り組んでお互いをよく知った上で次のステップに進むのがいいのでは、と県は考えている。

（２）福島県水道ビジョンの骨子（案）について
（高橋）：目指すべき理念で「安全、強靱、持続」の３つは解りやすいが、市民の方にストレートに伝わる具体的な表現の方がよいのではないかと思う。「事業経営」「施設更新・耐震化」「基幹管路・管網の再整備」等に置き換えてはどうか。事業体の努力をわかってもらえるような書き方でも良いと思う。検討会では、公営企業の中でも、特にライフラインの維持のあり方、経営のあり方について市民意識からも提言があるといいのでは。圏域については、「地域の特徴に合わせて」とあったが、１圏域の中でも水系が違うので、そこも考慮が必要ではないか。広域連携については、災害時の連携等はいいが、事業統合については、首長・管理者の意識や配管更新への認識、負担力が違うので時期尚早だと思う。共同化については、共通の地域課題としてのモデル事業化をすればいいのでは。
（長岡）：「安全」「強靱」「持続」について、「〇〇を目指す」など補足した方がいいと思う。
（事務）：「安全」「強靱」「持続」の単語だけでなく、説明文も入れることを考えていた。参考にする。広域連携についても、事業統合ありきではなく取り組みやすいソフト面から進めていきたいと考えている。
（長岡）：広報として収入や老朽化の情報を正直に出していくことも大事。施設整備にもお

金がかかると知ってもらうことが重要。県内部でも水道について理解してもらうことが必要。ＩＣＴについては、ビジョンでも触れる必要はあるのでは。
（事務）：圏域については、この単位で検討会を開いていくこと等考慮したものなのでご理解願う。水系ごとの考え方も取り入れていきたい。
（今泉）：県内部でも水道についてもっと理解がなされるよう努力が必要。このビジョンでは、このままだと漏水が頻発して直す人もいない、水道料金が急に上がって県民生活に多大な影響を与えるなど、５０年先危ない、くらいのインパクトを県民に与えるものにしても良いと思う。
（今泉、長岡、佐藤）：水道の理想像と目標は「安全」「持続」「強靱」で設定するが、基盤強化方策が別の視点で４つの柱になっている点わかりづらい。この４つに含まれないものや現状分析の結果から見えてくるものもあるのでは。
（事務）：４つの分類には、課題に対応する具体的な方策が含まれるが、抜けているもの、今後新たに出てくるもので重要なものがあれば盛り込むことを検討する。わかりづらい点は策定作業の中で改善する。
（田崎）：健全性という言葉が施設でも経営でも出てくるので違和感がある。

（３）その他
長岡：スケジュールの確認を。
事務：検討会は７月に第３回、１０月に第４回１月か２月の第５回でとりまとめを行う。パブリックコメントも行い年度内に完成させる。